

ユネスコ／日本ESD賞について

- より良いESDの取組に向けた動機付けと、優れた取組を世界に広めることを目的とし、日本政府の財政支援により2014年に創設。ESDユネスコ世界会議（2014年11月、愛知県名古屋市で開催）において創設を発表。詳細は以下のとおり。
 - （1）期 間：グローバル・アクション・プログラムが実施される2015-2019の5年間
 - （2）奨 励 金：1件当たり5万米ドル
 - （3）受賞対象：グローバル・アクション・プログラムの5つの優先行動分野のうち、1つ以上の分野で活発に関与している個人又は団体
 - （4）公募・選考：ユネスコ加盟国又はユネスコNGOの推薦（3件まで）に基づき、外部有識者からなる審査会による選考を経て、事務局長が決定
 - （5）選考基準：
 - ①社会的な変化を促す取組がなされていること
 - ②社会、経済、環境の3つの分野を一体的に取り扱っていること
 - ③革新的なアプローチを採用していること

- ユネスコ各加盟国及びユネスコの公式NGOから推薦された60件の応募につき、5名からなる国際審査員による選考を経て、ユネスコ本部において受賞者を以下のとおり決定。第38回ユネスコ総会開催中の2015年11月5日、ユネスコ本部（フランス・パリ）において、ボコバ・ユネスコ事務局長、馳文部科学大臣出席の下、表彰式を実施。
 - ・ESDユースアンバサダー（グアテマラ・エルサルバドル）：青少年が、気候変動に関する国民の関心を高める活動を通して、地域におけるESD活動の中核を担う取組。
 - ・エコフレンドリー社会起業家プロジェクト（インドネシア）：社会起業家が地域の関心の下に、持続的であるコミュニティーを構築するスキルを育成する取組。
 - ・グリーン・オフィス・モデル（ドイツ）：学生が主体となって、組織全体の活動をESDの視点から見直すことを支援する活動。